

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	水 4	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】 基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。					【受講して得られる力】 固定技術 基礎学力		
【学習目標(到達目標)】 ①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。							
【履修上の注意】 手指の爪などを含め服装などに注意する。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	包帯固定学総論		固定の目的、固定の範囲、固定の肢位 上記を正しく理解する。				
2	固定材料の種類		硬性材料・軟性材料 各種固定材料を理解する。				
3	巻軸帯の巻き方と注意事項1		包帯の巻き方の基本・持ち方・巻き始めと終わり 上記を正しく理解する。				
4	巻軸帯の巻き方と注意事項2		巻き進め方向・巻き締め強度・均等圧・美しさ・巻く速さ 上記を正しく理解する。				
5	巻軸帯の巻き戻し		巻軸帯の巻き戻し方 上記を正しく理解する。				
6	基本包帯法 1		環行帯・螺旋帯 上記を正しく理解する。				
7	基本包帯法 2		蛇行帯・折転帯 上記を正しく理解する。				
8	基本包帯法 3		亀甲(翼状)帯・麦穂(人字帯、スカルパ巻)帯 上記を正しく理解する。				
9	冠名包帯法 1		デゾー包帯(左右)側 上記を正しく理解する。				
10	冠名包帯法 2		ウェルボー包帯(左右側)・ジュール包帯(左右側) 上記を正しく理解する。				
11	部位別包帯法 1		肩関節部固定法 上記を正しく理解する。				
12	部位別包帯法 2		上腕部固定法 上記を正しく理解する。				
13	部位別包帯法 3		肘関節部固定法 上記を正しく理解する。				
14	部位別包帯法 4		前腕部固定法 上記を正しく理解する。				
15	部位別包帯法 5		手関節部固定法 上記を正しく理解する。				
16	これまでの復習						
【教科書】包帯固定学 (社)全国柔道整復学校協会 監修							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。					【受講して得られる力】 固定技術 基礎学力	
【学習目標(到達目標)】 ①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。						
【履修上の注意】 手指の爪などを含め服装などに注意する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
17	部位別包帯法 6		手指部固定法 上記を正しく理解する。			
18	部位別包帯法 7		股関節部固定法 上記を正しく理解する。			
19	部位別包帯法 8		大腿部固定法 上記を正しく理解する。			
20	部位別包帯法 9		膝関節部固定法 上記を正しく理解する。			
21	部位別包帯法 10		下腿部固定法 上記を正しく理解する。			
22	部位別包帯法 11		足関節部固定法 上記を正しく理解する。			
23	部位別包帯法 12		足背部固定法 上記を正しく理解する。			
24	部位別包帯法 13		足指部固定法 上記を正しく理解する。			
25	各部位の副子固定1		上肢の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。			
26	各部位の副子固定2		体幹の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。			
27	各部位の副子固定3		下肢の各部を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。			
28	ギプス固定1		石膏ギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。			
29	ギプス固定2		キャストライトギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。			
30	ギプス固定3		プライトンを用いた固定法 上記を正しく理解する。			
31	期末試験を実施					
			評価方法	実技試験	80%	
				受講態度	20%	
【教科書】包帯固定学 (社)全国柔道整復学校協会 監修						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
大内 佳奈江	接骨院 3年勤務	大内	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 柔道整復師法、医療法について理解を深めるとともに、医師法をはじめとする医療従事者関係法規の内容について理解する。また、柔道整復師の受領委任制度、国民医療費など近年着目されている内容についても学習する。					【受講して得られる力】 基礎学力 状況判断力 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】 ①柔道整復師の業務を行う上で必要不可欠である関係法規について理解する。 ②社会保険制度を理解し、その財源や問題点を知る。 ③医療事故の概要について理解し、危機管理という観点を身に着ける。 ④個人情報の保護について理解し、学生の段階から日常生活において意識する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	序論		法の意義、体系、柔道整復師と患者の権利 (インフォームド・コンセント、医療事故と医療過誤、リスクマネジメント)			
2	柔道整復師法とその関連内容		総則、免許、柔道整復師国家試験、業務 (教科書①p10～28の内容を読み、要点を理解する。)			
3	柔道整復師法とその関連内容		施術所、広告、罰則、指定登録機関について (教科書①p29～44の内容を読み、要点を理解する。)			
4	柔道整復師法とその関連内容		医療従事者の資格法 (教科書①p47～65の内容を読み、要点を理解する。)			
5	関係法規		医療法(総則、医療提供施設、情報の開示、安全の確保) (教科書①p66～87の内容を読み、要点を理解する。)			
6	関係法規		社会福祉関係法規 (教科書①p88～92の内容を読み、要点を理解する。)			
7	社会保険関係法規		社会保障制度、国民医療費 (教科書②p1～9の内容を読み、要点を理解する。)			
8	社会保険関係法規		健康保険法、国民健康保険法の目的、定義 (教科書①p93～95、②p10～13の内容を読み、要点を理解する。)			
9	社会保険関係法規		後期高齢者医療制度の概要 (教科書①p95～97の内容を読み、要点を理解する。)			
10	社会保険関係法規		介護保険法の概要 (教科書①p97～99、②p6の内容を読み、要点を理解する。)			
11	柔道整復師業務における療養費		療養費制度の概要、支給申請書の記載 (教科書②p19～48の内容を読み、要点を理解する。)			
12	その他の関係法規		個人情報の保護に関する法律 (教科書①p101～104、②p63～65の内容を読み、要点を理解する。)			
13	職業倫理		柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 (教科書②p49～55の内容をもとに、ディスカッションを行う。)			
14	職業倫理		柔道整復師の社会的責任と対応 (教科書②p56～62の内容をもとに、ディスカッションを行う。)			
15	まとめ		これまでの復習			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	
				受講態度	10%	
【教科書】①関係法規 2019年度版 ②社会保障制度と柔道整復師の職業倫理						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】専門基礎(公衆衛生学)						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】		
				教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	月～金 1	【授業形態・単位】	講義 3	
【授業の概要】 損傷から患者の管理まで幅広い知識を身に付ける					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①骨折、脱臼の症状を理解し実技に応用する ②整復法や固定法を理解し実技に応用する ③後療法(手技療法、物理療法)を理解し実技や臨床実習に応用する					考え抜く力 チームで働く力 状況判断力 忍耐力		
【履修上の注意】 骨折、脱臼の症状や整復障害をしっかりと区別する。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	骨の損傷①		骨の形態と機能 骨折の分類				
2	骨の損傷②		骨折の症状 骨折の合併症 小児骨折 高齢者骨折				
3	骨の損傷③		小児骨折・高齢者骨折 骨折の癒合日数				
4	骨の損傷④		骨折の治癒過程 骨折の予後				
5	骨の損傷の復習		骨の損傷の復習				
6	関節の損傷①		関節の構造と機能 関節損傷の分類				
7	関節の損傷②		関節構成組織損傷 脱臼の定義と概説 脱臼の発生頻度				
8	関節の損傷③		脱臼の分類 脱臼の症状				
9	関節の損傷④		脱臼の合併症 脱臼の整復障害 脱臼の経過と予後				
10	関節の損傷の復習		関節の損傷の復習				
11	筋の損傷①		筋の構造と機能 筋損傷の分類 筋損傷の症状				
12	筋の損傷②		筋損傷の治癒機序 筋損傷の予後				
13	筋の損傷の復習		筋の損傷の復習				
14	腱の損傷		腱の構造と機能 腱損傷の分類				
15	総復習		骨・関節・筋・腱損傷の復習				
期末試験			評価方法				
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1	
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	月～金 1	【授業形態・単位】	講義 3	
【授業の概要】 損傷から患者の管理まで幅広い知識を身に付ける					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①骨折、脱臼の症状を理解し実技に応用する ②整復法や固定法を理解し実技に応用する ③後療法(手技療法、物理療法)を理解し実技や臨床実習に応用する					考え抜く力 チームで働く力 状況判断力 忍耐力		
【履修上の注意】骨折、脱臼の症状や整復障害をしっかりと区別する。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	末梢神経の損傷		神経の構造と機能 神経損傷の分類 神経損傷の症状				
2	診察		診察時の注意点 診察手順 治療計画の作成 施術録の取り扱い				
3	治療法(整復法)		骨折の整復法 脱臼の整復法				
4	治療法(固定法)		固定施行時の配慮 固定後の配慮				
5	治療法(後療法)		手技療法 運動療法 物理療法				
6	復習		神経損傷、診察、治療法の復習				
7	手技療法		実際に手技療法の種類を体験				
8	手技療法		実際に手技療法の種類を体験				
9	物理療法①		各物理療法器具の特徴、使い方				
10	物理療法②		各物理療法器具の特徴、使い方				
11	物理療法③		実際に物理療法器具を体験				
12	物理療法④		実際に物理療法器具を体験				
13	治療法(指導管理)		患者の環境に対する指導管理 自己管理に対する指導				
14	治療法(指導管理)		患者の環境に対する指導管理 自己管理に対する指導				
15	総復習		神経、診察、治療法の復習				
期末試験			評価方法				
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	1
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	月～金 1	【授業形態・単位】	講義 3
【授業の概要】 損傷から患者の管理まで幅広い知識を身に付ける					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①骨折、脱臼の症状を理解し実技に応用する ②整復法や固定法を理解し実技に応用する ③後療法(手技療法、物理療法)を理解し実技や臨床実習に応用する					考え抜く力 チームで働く力 状況判断力 忍耐力	
【履修上の注意】骨折、脱臼の症状や整復障害をしっかりと区別する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	骨損傷・関節損傷の問題作成		グループでの復習+問題作成			
2	骨損傷・関節損傷の問題作成		グループでの復習+問題作成			
3	骨損傷・関節損傷の問題解答		他グループが作成した問題を解く			
4	筋・腱・神経損傷の問題作成		グループでの復習+問題作成			
5	筋・腱・神経損傷の問題作成		グループでの復習+問題作成			
6	筋・腱・神経損傷の問題解答		他グループが作成した問題を解く			
7	触診・治療法(整復法・固定法)の問題作成		グループでの復習+問題作成			
8	触診・治療法(整復法・固定法)の問題作成		グループでの復習+問題作成			
9	触診・治療法(整復法・固定法)の問題解答		他グループが作成した問題を解く			
10	治療法(後療法)・指導管理の問題作成		グループで物理療法の復習			
11	治療法(後療法)・指導管理の問題作成		グループでの復習+問題作成			
12	治療法(後療法)・指導管理の問題作成		グループでの復習+問題作成			
13	治療法(後療法)・指導管理の問題解答		他グループが作成した問題を解く			
14	手技療法		手技療法の復習			
15	総復習		復習			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	70%	小テスト
				受講態度	20%	10%
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	病院 5年勤務	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。					【受講して得られる力】 状況判断力 目標達成 固定技術 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①脱臼について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ②脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ③脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	顎関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
2	頸椎脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
3	胸椎脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
4	胸鎖関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
5	肩鎖関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
6	肩関節前方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
7	肩関節後方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
8	肩関節上方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
9	肩関節下方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
10	反復性肩関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
11	前腕両骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
12	橈骨頭単独脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
13	肘内障		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
14	遠位橈尺関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
15	小テスト		総復習とまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	小テスト	10%
				受講態度	10%		
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	病院 5年勤務	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。					【受講して得られる力】 状況判断力 目標達成 固定技術 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①脱臼について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ②脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ③脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	月状骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
2	手根中手関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
3	第1指中手指節関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
4	第1指以外の中手指節関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
5	近位指節間関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
6	遠位指節間関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
7	股関節後方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
8	股関節前方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
9	股関節中心性脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
10	膝蓋骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
11	膝関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
12	足部の脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
13	シヨパール関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
14	中足、足指部の脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
15	脱臼まとめ		総復習とまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	小テスト	10%
				受講態度	10%		
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
福 安喜	病院10年勤務 接骨院開業 20年経験	福	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	実技 2
【授業の概要】 体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 固定技術 コミュニケーション力 協調性の向上 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定肢位を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	肋骨骨折 肋骨骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成			
2	肋骨骨折 肋骨骨折		固定(手ーピング・包帯) 後療法のプログラムの作成			
3	大腿骨骨幹部骨折 大腿骨骨幹部骨折		症状、転位の確認 整復操作			
4	大腿骨骨幹部骨折 大腿骨骨幹部骨折		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成			
5	第5中足骨基部裂離骨折		症状、転位の確認 整復操作 固定材料の作成			
6	第5中足骨基部裂離骨折 第1趾基節骨骨折		固定 後療法のプログラムの作成 症状、転位の確認、整復操作			
7	第1趾基節骨骨折 第1趾基節骨骨折		固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成			
8	松葉づえ 松葉づえ		調節のしかた 接地部のつきかた。 平地の歩き方			
9	松葉づえ 松葉づえ		階段の昇りかた・降りかた 松葉づえで校舎内を実際に歩く。			
10	肋骨骨折復習口頭試問対策 肋骨骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 肋骨骨折のキーポイントをまとめる。			
11	大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問対策 大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 大腿部骨幹部骨折のキーポイントをまとめる			
12	第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策 第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 第5中足骨骨折のキーポイントをまとめる。			
13	第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策 第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法、固定法の確認 第1趾基節骨骨折のキーポイントをまとめる。			
14	確認テスト 確認テスト		出題に答える。触診、固定 出題に答える。触診、固定			
15	総復習 総復習		各グループで復習 各グループで復習			
期末試験			評価方法	実技試験	80%	
				受講態度	20%	
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版						
【参考書】解剖学教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】転位方向正しく理解し整復操作をする。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
福 安喜	病院10年勤務 接骨院開業 20年経験	福	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	実技 2
【授業の概要】 体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 固定技術 コミュニケーション力 協調性の向上 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定肢位を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	肋骨骨折 肋骨骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成			
2	肋骨骨折 肋骨骨折		固定(テーピング・包帯) 後療法のプログラムの作成			
3	大腿骨骨幹部骨折骨折 大腿骨骨幹部骨折骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成			
4	大腿骨骨幹部骨折骨折 大腿骨骨幹部骨折骨折		固定材料の作成 固定・後療法のプログラムの作成			
5	第5中足骨基部裂離骨折 第5中足骨基部裂離骨折		症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成			
6	第5中足骨基部裂離骨折 第1趾基節骨骨折		固定 後療法のプログラムの作成 症状、転位の確認、整復操作			
7	第1趾基節骨骨折 第1趾基節骨骨折		固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成			
8	松葉づえ 松葉づえ		調節のしかた 接地部のつきかた 平地の歩きかた			
9	松葉づえ 松葉づえ		階段の昇りかた 降りかた 松葉づえで校舎内を実際に歩く			
10	肋骨骨折復習口頭試問対策 肋骨骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法を確認 肋骨骨折のキーポイントをまとめる			
11	大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問 大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問		症状、転位、整復法を確認 大腿骨骨幹部骨折のキーポイントをまとめる			
12	第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策 第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法を確認 第5中足骨骨折のキーポイントをまとめる			
13	第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策 第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策		症状、転位、整復法を確認 第1中足骨骨折のキーポイントをまとめる			
14	確認テスト 確認テスト		出題に答える 触診 固定 出題に答える 触診 固定			
15	総復習 総復習		各グループで復習 各グループで復習			
期末試験			評価方法	実技試験	80%	
				受講態度	20%	
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版						
【参考書】解剖学教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		